

# NPO法人 みどりのゆび

# 会報 2022年 春号



コロナの克服は、まだまだ時間がかかりそうですね。 十分な感染防止対策をして、春のフットパスをお楽しみください。

ご挨拶 事務局長・神谷 由紀子

コロナ禍によって さらにニーズ高まるフットパス

コロナ禍は多大なロスを社会にもたらしました。 被害に遭われた方々のことを思うと深く心が痛み ます。しかしこの状況においても生き残り、次の 時代の灯になっているものもあります。フットパ スもその一つです。遠出できずに精神的にも窒息 しそうな社会の中で、マスクをはずして近場のと や自然を楽しむことはどれほど人々の生きる力と なったかしれません。小野路でも若い夫婦や家族 連れの姿が多く見られるようになりました。

フットパスが日本で始まって20年。この間に北海道から九州、沖縄まで日本全国で活動団体が増え、2020年の調査(泉留維および日本フットパス協会調べ)では全国に122の団体、575本のフットパスがあり、総距離は4251 kmに及びます。

そして、その数はコロナ禍においても増加しており、北海道・九州に次いで東北や関西・中国地方でも大きなネットワークができつつあります。 私たちの小野路にも昨年から新潟県の浦佐、熊本県宇土市(延期)、福島県西郷村(延期)からの視察要請が相次ぎ、コロナに負けずに次の時代のまちをつくろうとする地方の勢いを感じます。 この20年を経て、フットパスも次の段階を迎え ています。

SDGsが経済に大きな影響を及ぼす時代となり、「緑」が経済資源として見直されるようになりました。フットパスの先にも様々な事業のアイデアや経済化が考えられるようになっています。

各地のフットパスはそれぞれに自分のビジョン や目標を持って新しい活動に繋げようとしていま す。

キャンプ場や民泊経営、食事処の経営、蔵ワインや地ビールの製造、などフットパスの先に繋がる新しい業態に取り組もうとしたり。またロングトレイルなどと連携して広域的に活動を繋げようとしたり、フットパスでテーマパークを作り上げ新しい経済を生み出そうとしたり。これからの先行きに目が離せません。

『みどりのゆび』でも町田の中に35あるコースを活用して、あちこちにテーマパークを作っていきたいと思っています。自分の地域の近場でファミリーが楽しく半日、1日を過ごせるような町田や全国の未来図を描いています。



### フットパス専門家講座 スミレ博士と行く秋の箱根 精進池から東芦之湯

[講師: 山田隆彦]

# 箱根周辺特有の野生バラが赤い実をたくさん付けて

10月3日(日) 天気:晴 参加者:7名

箱根には、多摩丘陵や高尾山、奥多摩などでは 見られない特有な植物が多くあります。「みどり のゆび」では、精進池の畔から芦之湯までを巡り ながら秋の気配が濃い植物たちを観察。この時に 見られた植物についてご紹介します。



精進池周辺。右奥に磨崖仏(六道地蔵)の社が(写真:横山)

#### サンショウバラ [山椒薔薇] バラ科

散策しながら、コースには点々と生えているのが見られます。葉や刺の形がサンショウに似ているところから、サンショウバラの日本名がつきました。富士・箱根地方のクリ帯からブナ帯の日当たりのよい所に分布しており、大木に覆われてしまう植物です。花は、6月に咲き、径5~6cmでピンク色をしておりとても奇麗です。一日花ですが、次から次へとらいて2週間くらいは楽しめます。散策時には、で2週間くらいは楽しめます。本後に、庭園や庭に植栽したものはよく育つのに、富士・箱根周辺以外で野生しているものは見られません。



サンショウバラ

#### フジイバラ [富士茨] バラ科

富士・箱根・丹沢一帯に多く、あとは秩父山地、奈良県大峰山から四国中央山地に点々とブナ帯に分布しています。花期は6~7月で、白色の小さな花を多数つけ、サンショウバラより少し遅れて咲きます。ノイバラに似ていますが、幹は太くしっかりとしていて、小高木状になります。箱根周辺の風衝草原でこんもりと茂って白色の花をつけているのはこの種です。日本のバラ属の中では最も幹が太くなります。



フジイバラの実(写真:横山)



フジイバラの白い花

ヒメシャラ「姫沙羅」ツバキ科

箱根を代表する樹木の一つで、木肌が黄褐色をしていて、とても奇麗です。樹皮の色ですが北限の色ですを知ることができます。箱根が北限にいますが、中国地方には生えていません。北限にもかかわらず、この地域の個体色、北限にもかかわらず、この地域の個体色、上向きに咲き、地面に落ちている花を見て、花は大きく、2ヵ月に吹きます。花のない時には、黄褐色の樹皮に細い黒い縞が入っているので、見分けれます。丹沢以西、九州まで分布しています。





ヒメシャラ

オトメアオイ

その他、淡紅色の花をつけるヤマジオウや箱根 周辺と伊豆半島に分布するオトメアオイがあり、 多摩地方に多いタマノカンアオイとの比較も興味 深い。春のスミレ類では、濃い紅色の花をつける エイザンスミレやシコクスミレ、花弁は白く、距 (花の後ろに飛びでている箇所で蜜が溜まってい ます)がピンク色のオトメスミレなどが楽しめま す。アップダウンもあまりなく四季折々の花が楽 しめますので、お勧めの散策コースです。

(文と写真:山田隆彦)

### 群れ咲く秋草を従えて点在する 磨崖仏や石塔に歴史を忍ぶ池畔散策

歴史ある景勝の地として、都心からも近い箱根。 今回は箱根湯本駅からバスで26分という「六道地蔵」で下車してすぐの、眼前に広がる精進池周辺が秋の箱根ならではの植物探査のコースに選ばれました。

ここ元箱根周辺は国道1号線の最高地点の近くに位置し、鎌倉時代の主要街道・湯坂路のもっとも険しい峠にあたります。池畔には元箱根石仏・石塔群が立ち並んでおり、六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上)に分かれる辻と考えられていました。







ノコンギク

精進池池畔を巡る小径にはノコンギクなど、この季節ならではの野菊の仲間や秋草が群れ咲いて、点在する永仁元年から掘られたという二十数体の磨崖仏群や八百比丘尼、多田満仲の墓など歴史上の人物を祀る石塔の足元を彩るようすは、箱根の歴史散歩の一場面でもあります。

中でも野生バラ愛好家垂涎のサンショウバラ、 フジイバラなどが大きな灌木となって赤い実を付 け、秋の日射しに輝く姿が印象的でした。

多彩な灌木群の中でも、特に目を引くのは木肌 の美しいヒメシャラの大木。庭園木としても人気 で、初夏には白い花をたくさん咲かせるはずです。



精進池の遊歩道から 芦之湯方向へ



芦之湯温泉街の先の湿地で スマホ撮影に夢中

さて、遊歩道をさらに進んで芦之湯方面へ。波う つススキの穂や、湿地帯では早くも色付き始めた草 紅葉が迎えてくれました。

(文と写真:横山 禎子)



# 他のまちのフットパスをみてみよう 伊勢原-時空の散歩道

「講師:田邊博仁」

#### 伊勢原丘陵の眺望とミカン狩りと 三之宮比々多神社を訪ねる

10月24日(日) 天気:晴 参加者:12名

大山を頂点として広がる伊勢原丘陵地帯は、 「四神相応」の地、気候も温暖、太古から人々の 生活の舞台になっていました。今回は、伊勢原市 西部の比々多地区をご案内しました。ミカン畑と 畑地が続くのどかな丘陵地帯を大磯丘陵から江ノ 島、三浦半島の大パノラマを見ながら歩く自然フットパスです。 また、東日本最古級といわれる 「三ノ宮比々多神社」付近は神奈川県でも一番の 古墳密集地として知られ、「登尾山(とおのやま) 古墳」や「埒免(らちめん)古墳」など県下有数の 副葬品が出土した古墳が集中しています。相模国 の成立にもふれる歴史フットパスでもあります。



大山と伊勢原丘陵比々多地区の風景

今日のスタートは小田急線鶴巻温泉駅です。地 元の木をふんだんに使った駅舎が新鮮で、とても 気持ちの良い駅です。

まずは、駅前の創業100年の老舗温泉旅館「陣屋」をご案内。カルシウムは牛乳以上、世界でも有数の含有量の温泉です。ちょっと飲んでみました。

国道246号を渡ります。この道は、律令時代は「古代東海道」、江戸時代は「矢倉沢往還」、「大山街道」とも呼ばれてきました。古道の雰囲気が伝わる「矢倉沢往還」を見て、坪ノ内バス停から、「関東ふれあいの道」(太田道灌・日向薬師のみち)に入り、道標に従って歩きました。途中、「八幡神社」からの山道で、奇妙な「玉ねぎ石」を見つけました。丹沢が隆起したとき凝灰岩類が地表に露出し風化作用によって形成されたものです。丹沢、伊豆半島の形成の歴史の証拠です。



伊勢原丘陵の「関東ふれあいの道」を歩きます



山道で「玉ねぎ石」に出合いました

比々多地区は、温暖な気候を活かし「フルーツの 里」と呼ばれ、果物の生産(かき、いちご、ミカン、 ぶどう)が盛んです。

ちょうど、特産のミカンの収穫シーズンが始まった、「長福寺」先の100年以上続くみかん専門の農家 「まるひの園」におじゃまし、ミカン狩りを楽しませていただきました。伊勢原のミカンは明治末期に静岡や小田原などから栽培技術が導入され、日本最北端のミカンとして有名であります。この農家さんの裏山で登尾山古墳が発見されました。



ミカン狩りが終わって

そして、しばらく伊勢原丘陵の里山の道を歩いて「県立いせはら塔の山緑地公園」の展望台広場へ登り、ここで昼食をとりました。この展望台からも、東京・横浜、三浦半島、相模湾の大パノラマを見ることができました。



展望台から大パノラマを楽しむ

展望広場を下りると、前方に東京農業大学伊勢 原農場と元恵泉女学園園芸短期大学の建屋が、高 原のホテルのように広がっていました。この恵泉 大学の敷地内で、「埒免古墳」が発見されました。 ここは、フェンス越しに眺め、さらに小高い丘の 小道を登ると「三之宮比々多神社元宮」に着きま す。ここからの大パノラマも素晴らしい眺めでし た。



「三之宮比々多神社元宮」から大パノラマを楽む

丘をくだり、三之宮比々多神社の裏側付近の「下谷戸縄文遺跡 環状列石及住居跡」を見学し、「三ノ宮比々多神社」の境内へ入り、お参りをしました。ここの宮司さんとはメールのやり取りでフットパスに興味を持っていただき、「三之宮郷土博物館」では、名誉宮司さま(現宮司さんのお母さま)より、三之宮神社の説明と展示されている出土品の説明をいただき、集合写真までも撮っていただきました。



「三之宮比々多神社」にて (文と写真:田邊 博仁)

# 農家の畑で発見する珍しい植物も楽しみ

ミカン狩りをした農家さんで珍しい果物が売られていました。「ローゼル」は紅いツボミのような形をしていて、ハイビスカスティーの材料になります。熱帯地方原産で古い歴史を持ち、クレオパトラも食したとか。また「フェイジョア」も熱帯果樹で、近くの東京農大の演習農場で栽培されていました。楕円形の緑の実は甘く、生食やジャム等にします。農家さんも新しい作物の導入を図っておられるようです。これらは花も独特できれいです。花の季節に訪れるのも楽しいと思います。



珍しい果物ローゼル

「県立いせはら塔の山緑地公園」は標高203m。下の道から10数分で登れますがマスクで歩くのはちょっとキツかった。しかし展望台まで登ると眺望は最高。伊勢原市街を眼下に相模平野が広がり、彼方にかすんで三浦半島から房総半島の山々まで見えました。昼食をとりながら飽かず眺めました。背後ではシロヨメナやオケラなど里山の花が咲いていました。

(文と写真:森正隆)

# フットパス専門家講座 小田原の海浜別荘跡と宿場町を歩く

「講師:浅黄 美彦]

旧東海道、国際通り、かまぼこ通りな どに、小田原の歴史と風情を今に

11月7日(日)天気:曇り 参加者:13名

お城には行かず、小田原の生業と海辺の海浜別 荘跡そして最近建った小田原の公共施設を見ると いう企画です。

まずは小田原駅東口から南へ歩き、城下町・宿場町を支えた生業を営むお店を訪ねました。明治創業の「だるま料理店」、漆とうつわの「石川漆器」、創業360年の老舗「倭紙茶舗江嶋」などの'街かど博物館'を巡りながら、ものづくり文化を今に伝える小田原を歩きました。



「江嶋」 昭和4年築 出桁造 小田原市歴史的風致形成建造物指定

南に進むと国道1号線がクランクする箱根駅伝の名所へ。もうすぐ解体される「小田原市民会館」、昭和初期の銀行建築、かわいらしい洋館風の「山本眼科医院」など、近代建築が集まっているエリアを眺め、小田原の豊かさを改めて感じました。





「山本眼科医院」現役の医院建築

さらに南へ、旧東海道には、かつての網問屋をリノベーションした「小田原なりわい交流館」、その先の海辺と並行した通りが「かまぼこ通り」。この通りの蒲鉾店の縁台でビールセットをいただく。のんびりとした通りから、かつ節の「籠常」の路地に入り、旧堤防、西湘バイパス下の狭いトンネルを抜けると海。横丁、路地、トンネルと閉じた場所と開けた場所の変化を楽しむ。



「籠常」の横の路地



小田原海岸・御幸の浜(写真:田邊)

海から少し戻って堤防沿いを歩くと、小田原の 私小説作家川崎長太郎の小屋跡碑がある。かつて の花街の外れ「抹香町」の世界を味わうこともで きる。

海沿いを西に歩くと多くの寺がある。お城を守る海岸防備の配置なのかもしれない。「正恩寺」の向かい側には、伊藤博文別邸跡「滄浪閣」がある。明治23年御幸の浜に建て、7年ほど過ごし大磯に移っていった。大磯の「滄浪閣」が有名ですが、こうした歴史の中に埋もれている「小田原の滄浪閣」をみるのも悪くない。

さらに西へ進むと、「旧横河民助の別荘」跡の 長い煉瓦塀が残る。その先に「小田原文学館(旧 田中光顕別邸)」がある。昭和12年築、曽禰中條 建築事務所が手掛ける。小田原に残る海浜別荘と して貴重でもある。



「小田原文学館」3階テラス

そろそろ帰路へ。北東に歩き、今年開業した 「三の丸ホール」からのお城を眺め、いよいよゴ ールの「MINAKA小田原」に着く。足湯のある屋 上からもう一度お城と市街を眺め解散しました。



「MINAKA小田原」からの眺望

(文と写真:浅黄 美彦)

#### 海辺のまちらしい風情と、 通りの建物を堪能

久しく小田原に行っていないのと、案内に気になる建物があって、飛び入り参加させてもらいました。駅前とお城の周りは、整備が終わって、既 視感のある綺麗な観光地になって、とても賑わっていました。

通称「かまぼこ通り」と海に通じるエリアは、 海辺のまちらしい風情。床屋さんのシンプルなが ら気を惹く、海辺に似合った窓やドアのデザイン と色合い。看板の上の辺りのデコっぽいマーク。

久しぶりにまち歩きの楽しみを味わいました。 マスクがなければ、乾杯ビールも出来るのに、コロナ、早く退散して欲しい!



「かまぼこ通り」の理髪店

(文:木村 真理子 写真:浅黄)



ご参加のみなさまと (写真:田邊)



### 新しいフットパスを作ろう

#### 鶴川駅周辺 能ケ谷・金井・岡上

「講師:浅黄 美彦・神谷 由紀子]

#### 新旧の鶴川駅周辺・ 秋の岡上とヌーヴォーワイン

11月21(日) 天気:晴 参加者:14名

駅前広場が移動し、新たに駅舎・自由通路ができる小田急線鶴川駅周辺は、工事が始まる直前で空き地が広がっている。そんな駅前を眺めつつ旧「香山園(かごやまえん)」へ。 2017年に町田市が取得し、こちらも現在都市緑地として整備中でした。明治の書院造の建物(瑞香殿)と池泉回遊式庭園を活かした緑地として 2024年 には完成するそうです。



旧「香山園」庭園と建物 こんな姿が2024年には再び見ることができる

「香山園」の西側には神蔵家の分家家屋が点在する。縄文・弥生の能ケ谷遺跡跡であるとともに、中世からの集落の地でもあります。屋敷の背後にある竹林を抜け丘の上に出ると一族のお墓がある。そこからは、鶴見川沿いの岡上の丘陵地が見える。この駅前に鶴川の原風景ともいえる風景が残るのもここならではの魅力です。

新しい鶴川駅は、駅の中から鶴見川や丘陵地の自然が感じられるような空間に生まれ変わるそうです。旧香山園の緑地と既存の旧白洲二郎・正子邸「武相荘」、「可喜庵」、「みんなの古民家」などの魅力的な場所が知られています。今回のフットパスでは、これに加え、「鶴川駅の現代建築」にスポットを当て、歩いてみました。

能ケ谷の丘から坂を下り再び駅に戻り、最初の現代建築「アップル スタジオ フラッツ」(2005年竣工 設計 牛田英作)を見る。



緩やかに曲がる道沿いにある建物

その近くには、「和光大学ポプリホール」。 2012年竣工のホールで図書館などがある公共施設 (設計 仙田満+環境デザイン研究所)です。

さらに線路沿いを少し歩くと電車からも見える名物建物 「トラスウォールハウス」(設計 牛田英作+フィンドレイ)1993年竣工。"カタツムリの家"とも呼ばれ親しまれている。現在は東京R不動産の仲介により、住宅から播州織の「tamaki niimi」の店舗になり、不思議な内部空間を楽しむことができました。参加者のみなさん方の今日一番の興味ある建物であったようです。



「トラスウォール ハウスト

金井の「ゼロワンカフェ」で昼食。木倉川の崖沿いを坂を上り、緑に覆われた「金井代官屋敷跡(明治の神蔵分家は市指定文化財)」を廻り、再び鶴見川沿いを歩き、線路を越えて川崎市の飛地・岡上へ向かいました。

岡上の新興住宅地は、宅地開発関連法が制定する前の昭和30年代半ばの造成地のため、急斜面に家が並び、「壱番坂」から「十番坂」まで、細い坂道がある住宅地です。

そんな住宅地にある「六番坂の家」(2017年竣工 設計 杉浦伝宗)は、技術と愛情と惜しみない手間をかけて見事に再生した家でもあります。今日は、開催されていたオープンガーデン「季の庭」の原種シクラメンの講習会に参加、斜面を活用した秋バラと紅葉の庭園を見学させていただきました。



「六番坂の家」 「季の庭」

いよいよこの日のテーマ「岡上の蔵ワイン」をいただくために、岡上の旧家、山田邸へ向かいました。途中に旧家の跡地を集合住宅とした「tetto」(2015年竣工 設計salhaus)を眺め、緑に覆われた岡上の小路を歩きました。素敵な場所を繋ぐ小路の存在が鶴川駅周辺のフットパスコースの魅力を高めてくれるように思いました。

歩き疲れたあとのヌーヴォーワイン、美味しく いただきました。



ワインで乾杯:ワインは自家栽培したブドウで醸造

(文と写真:浅黄 美彦)

#### 鶴川はテーマパーク!

5~6年後に鶴川駅が東側と岡上側に広がり、商店街も増えて拡張するのをご存じですか?それに伴って今、鶴川と岡上が次第に繋がってきて駅の周りがとても面白くなっています!

今回はその岡上側の魅力を探求しながら歩きました。

岡上は、いまだ残る田園と昔道、乱開発による面白い家々と坂道、民度の高い町民と有名な建築家たちの創った家屋や店舗が顕著な非常に個性的な地域です。最近、カタツムリ型の民家を利用した「tamaki niime」のエスニックファッションの店や隠れ家的蔵ワインの「Carna Esto」、季節のいい時にオープンガーデンを開催する「季の庭」など洒落た拠点ができました。

近い将来、この岡上と鶴川、そして玉川学園までの拠点をきちんと整備すれば鶴川周辺が半日から1日を楽しめる新しいテーマパークになると期待しています。新しいお店なども増えて住みよい地域になることでしょう。楽しみですね。

SDGsの時代となり、今、町田市は市内に残る多くの緑を経済的な資源にしようとしています。といっても、昔のように開発をしたり、箱物を作ったりするというのではなく、町田市に広がる緑や自然を活かしてもっと楽しめるような企画を考案しています。その一つが鶴川です。岡上と鶴川の間にもっと一体感が生まれると思われます。

(文:神谷由紀子)



蔵ワイン:内部を醸造所とショップに改造

# フットパス専門家講座 成城学園と玉川学園

[講師:高見澤 邦郎]

#### 小原國芳が種を蒔き育んだ 二つの住宅地を訪ねる

12月5日(日) 天気:晴 参加者:20名

小原國芳(1887~1977)は鹿児島県の出身。苦学して京大を卒業し教師となり、時が経って成城高等学校の校長に就任しました。1926年、砧村に校舎を移すとき、借金して取得した土地の一部を分譲地として売り出してその収益で学校建設費をまかなうという、デベロッパー的センスを発揮しました。しかし成城での学校経営に限界を感じ、多摩川を越えた町田に、成城と同じく借金&宅地分譲で資金を調達し、理想とする「全人教育」を実践する場として玉川学園を創設したのです。

今回は、この、小原がつくった二つの住宅地を 歩いて、それぞれの町並みを見つつ両者の違いも 観察しようとの意図のフットパスです。



「成城カトリック教会」1955年今井兼次設計

小田急線成城学園前駅から南に数分、長崎の「二十六聖人殉教記念館」を設計した今井兼次による教会へ。日曜ミサ中だったので見学はせずに西に歩き、「こもれびの庭市民緑地」へ向かいました。世田谷区は土地所有者から委託を受けて公開する市民緑地制度を活用し、多くの緑地を整備していますが、ここはその代表例です。





のびやかな「成城三丁目こもれびの庭市民緑地|

成城の住宅地は武蔵野台地上の平坦地にありますが、西の野川、東の仙川に向かって崖(ハケ)が落ち込む地形。野川のハケに向かう「どんぐり坂」を下り、「なかんだの坂」を登って再び台地上に。北に進み小田急線トンネルの上にある「アグリス成城」という名の貸し農園の脇を通りました。賃料が高いせいか以前の賑わいはない様子。その先の「旧山田家住宅」の庭から崖線の「みついけ緑地(非公開)」を覗いて東に折れ、「旧猪俣邸」へ。吉田五十八設計の近代数寄屋と庭園を見学。



アメリカ風の「旧山田家住宅」



「旧猪俣邸 | (財)世田谷トラストまちづくりが運営

このあたりから成城学園の正門へ向かう道が「小原通り」でちょうど銀杏の黄葉が見頃でした。 直行する駅前からの桜並木が「澤柳通り」。この あたりがこの街のハイライトでしょう。

「緑陰館(柳田國男邸跡)」、そして道路の向かいの「丹下健三邸跡」を通り学園正門へ。学園へは入らず駅へと向かい、午前の部は終了しました(12時ジャスト)。

「各自昼食後の13時半に玉川学園前で再集合」と 約し、一旦解散。



「小原通り」銀杏の黄葉が見事

午後の部はまず、新装なった「玉川学園コミュニティセンター」の会議室で、成城と玉川学園住宅地の資料を配り30分ほどお話(高見澤が)。

「台地とハケの成城、谷戸と丘の玉川という地形の差違、そして戦前に半分ほどは家が建った成城と、土地は売れたが戦後まで人はあまり住んでいなかった玉川という歴史の差違、これらが今日の街の様相を大きく異ならせていると思います」と。さて5分ほど歩いたところの、子ども広場・ディケア・集会所・保育所などが集まる高台へ。これらは、1950年代の木造平屋都営住宅が建替えられるに際して、2000年前後につくられた施設群です。子どもやお年寄りをはじめ、地域住民の、まさにセンターとなっています。



高台の「3丁目こども広場」は市民が管理している

そこから"鉢巻き道路"(丘の上の方をぐるりと 廻る)を歩くと、もと、遠藤周作が、みつはしち かこが、赤川次郎が住んでいたあたりで、丹沢の 見えるこの街らしい一帯に。そして林雅子設計の アトリエ住宅を見た後、商店街通り(駅前通り) に降り、踏切を渡って東側に移りました。

こちらにもはちまき道路があり、いくつかのギャラリーもあります。この街には普通の住宅の一部を使って手作りのアクセサリーとか陶芸とかを飾ったり、作家を招いて小さな展覧会をしたりといった「小さなギャラリー」が、そう、20ヶ所くらいありましょうか。以前は季節ごとに会期を同じくして開くイベント(例えば「雛めぐり」)があったのですが、オーナーさんの高齢化などで中断しています。



「ギャラリーわおん」さんは道沿いに賑やか

そして鉢巻き道路から谷戸に降りてまた上がって……。少々息が切れましたが「多摩丘陵の谷戸の街、玉川学園」の雰囲気は十分に味わえたと思います。最後は階段(長く住んでいる作家の森村誠一さんが「天国への階段」と名付けた/いや、

「地獄への階段」だったかな)を上がり、玉川学園キャンパス入口の玉川池にたどり着いて今日の行程は終了。



最後の登り、天国?への階段

初めて参加された方も加え総勢20名。コロナが 収束に向かいつつある雰囲気もあってか、多くの 方々においでいただき、ありがとうございました。 また淺黄さんには、建築の解説などお世話になり ました。

(文:高見澤 邦郎 写真:高見澤・田邊)

# 初めてのフットパス (成城学園と玉川学園)

講師のお一人浅黄さんは、私が学生時代からお世話になっていた、まち歩きの先輩でしたので、声をかけていただき、今回初めて参加いたしました。私は、この3月で定年退職して、4月から学び直しをしていますが、久しぶりに時間をかけてじっくりと、まち歩きをさせていただきました。

午前中の成城の住宅地は、木々の成長とともに、 どの建物の佇まいも落ち着いていて、「一日中こ こにいたい」と思ってしまいます。

玉川学園の住宅地を歩くのは初めてでしたが、「みどりのゆび」の名の通り、ゆびさきの地形をなぞるように、何度も鉢巻き道路のアップダウンを繰り返しました。

目の前の緑豊かな住宅地と、坂を見下ろしながら見える遠くの景色を交互に見比べていましたが、なかでも、個人のお宅の前に設置されている「近所の本棚」は、ひらかれた街の象徴のようで、それぞれ工夫された佇まいは、写真を撮らずにいられませんでした。

午前と午後でかなり歩きましたが、皆さんと一緒に話をしながらまち歩きができて、本当に楽しかったです。また、よろしくお願いします。

(文:曽我 浩)

# NHK番組取材協力 趣味どきっ! 道草さんぽ 〜第6回 里山さんぽ〜

#### 小野路の里山をご案内しました

5月18日(下見1)、8月6日(下見2) 10月29日(撮影)、11月10日(放映)

11月10日(水)にEテレで放映された【趣味どきっ! 道草さんぽ ~第6回 里山さんぽ~】の取材協力依頼が「みどりのゆび」にあり、下見段階で2回対応をいたしました。

放映前の投稿は、NHKより控えてほしいとの 依頼がありましたので、今回は、下見の様子、本 番撮影の様子などをご紹介いたします。

①5月18日 下見1 ~時速200mの多田ワールドの世界~

私の通常のガイドでは約2時間の里山フットパスコースですが、なんと7時間! 植物生態学者 多田多恵子先生は、植物観察をしながら"時速2 00m"、まさに、「道草さんぽ」でした。 多田先生は、道端の植物や昆虫を見つけては、 その生態の興味深いお話、写真撮影など、など、 まったく時間を気にしない、楽しい方でした。

先生の本に「私は四つ葉探しの名人!」と書かれていましたが、まさに、道端のクローバーを見つけては四つ葉を探す、五つ葉も発見。「幸運のシンボルですよ!」と探し出した四つ葉のクローバーを頂いたり、アリの好物のエライオソームのついた種を運ばせようと、アリのそばにその種を置き、アリの行動の観察を始めたり。また、タブレットに「百均マクロレンズ」を装着、花のシベなどの超拡大、見たことのない世界を見せていただきました。

そんなこんなで、"多田ワールドの楽しい道草 時間"は、あっという間に7時間が経過しました。

多田先生と番組の制作会社のディレクター、プロデューサー、スタッフ、そして、ライターの合計6名の方々を、日本植物友の会副会長の山田隆彦先生とみどりのゆびスタッフ3名で、小野路の「万松寺谷戸」、「神明谷戸」、「奈良ばい谷戸」の里山をご案内いたしました。



スタートから立ち止まり観察を始める、なんと"アリグモ"。



四つ葉のクローバー探し

百均マクロレンズで撮影



アリの行動観察や植物観察が続く

#### ②8月6日 下見2 ~真夏の「万松寺谷戸」、「ならばい谷戸」~

下見の2回目は。ため池の植物を見たいとのことで、真夏の「万松寺谷戸」と「ならばい谷戸」を案内。

「万松寺谷戸」では、とても珍しいミズオオバコの可愛らしい花に出合いました。水田の環境悪化により激減、絶滅危惧種に指定されています。花の直径は2~3 c mほどで、白地にうっすらとピンク色の花、中心が黄色いですね。残念ながら儚い一日花だそうです。



「万松寺谷戸」の水田の植物観察、ミズオオバコ

「ならばい谷戸」では、「まちだ結の里」のスタッフのご案内。茎の先に鮮やかな赤紫色の沢山の花をつけたミソハギに出合う。ミソハギをバックにタコノアシの白い花が咲いていました。秋に真っ赤なゆでだこが足を広げたように見えるのでタコノアシと。



「ならばい谷戸」の水辺の植物観察、ミソハギとタコノアシ

以上の下見2回のご案内により、スタッフもこのコースを熟知して大変気に入られ、個人的にも、歩かれたとのことです。

10月に撮影用の下見が行われ、最終的に多田先生を交えての本番撮影(10月29日)が行われました。



小野路宿里山交流館周辺散策ガイドマップ

#### ③10月29日 撮影本番に出合う ~「ならばい谷戸」の本番撮影風景~

「小野路宿里山交流館」主催の「秋の小野路フットパスガイドウォーク」にて、「ならばい谷戸」をご案内途中で、偶然に、本番撮影現場に出会いました。お邪魔しないように、遠くから撮影風景を眺めました。

11月10日に放映ですから、10日ほどで編集するのですね。



フットパスガイドウォークにて「ならばい谷戸」をご案内





「ならばい谷戸」の撮影の様子





真っ赤なタコノアシ

ツリガネニンジンの花

④11月10日(水) Eテレ放映 ~NHK 趣味どきっ! 道草さんぽ~ 第6回 里山さんぽ



お笑い芸人・佐久間一行さんと多田多恵子先生

(文と写真:田邊 博仁)

# フットパス専門家講座 麻布・六本木の昭和モダン

[講師:浅黄美彦 塩澤珠江]

#### 変貌する飯倉・麻布台あたりを中心に 都心部のフットパスを歩く

1月9日(日)天気:晴 参加者:10名

今回のフットパスは、「我善坊谷」を中心とした飯倉・麻布台の都心部を歩きました。 折しも「虎ノ門・麻布台再開発」が工事中で、スリバチ地形の名所のひとつが失われつつあり、このまちの魅力や記憶を伝えたいという思いから、二人の講師が異なる視点からこのまちを案内してみようという企画です。

塩澤さんは、生活者の視点から、昭和24年から38年間飯倉に住んでいた思い出の場所を訪ねながら、飯倉・麻布台のまちを語っていただきました。 浅黄からは、1980年代の初めに「東京のまち研究会」で歩いた麻布台のまち歩きの視点(地形と歴史から都市を読む東京の空間人類学)から、麻布台のことを話させていただきました。



桜田通り歩道橋から見る「我善坊谷」

麻布の台地に東から西へ細長い窪地が「我善坊谷」、江戸時代に組屋敷(下級武士の住まい)として開発された。周囲の高台には大名屋敷が配置され、明治以降高台は、郵政省・外務省施設、華族の邸宅などに転換し、その裏手の窪地に庶民の住宅が立て込むという、典型的な山の手の景観を示していました。我善坊谷の消失風景を眺めることからフットパスをスタートしました。



飯倉の旧居(吉田謙吉邸)を語る塩澤さん

桜田通りから入る路地の奥、崖際にあった「吉田謙吉12坪の家」、今はビルの中にある敷地を眺めながら、崖を上って「聖アンデレ教会」に行ったこと、職人の家が多かった路地のことなど、飯倉の思い出を聞かせていただきました。



「雁木坂」

高台と窪地を結ぶのが坂、今回はいくつもの坂 を巡りました。その内のひとつ「雁木坂」。塩澤 さんからは飼っていたヤギを連れて雁木坂までき たエピソード、私からは昭和初期に近くに住んでいた島崎藤村が、「大東京繁盛記」で雁木坂に在いただきました。 坂の途中、路地に入ったあたりに喫茶店があった と参加者の合田さん。散歩の達人富田均さん、陣 内秀信先生も雁木坂の喫茶店に触れていたことを 伝えました。現地を歩き語ることで、今はないま に記憶を留めることができたような気がしま した。





麻布永坂の高級住宅地に佇む「高峰秀子・松山善三邸」

外苑東通りを越えて、「狸穴坂」に入る路地を 抜けると「藤村旧居跡」、さらに「植木坂」を上 ると、「旧ブリヂストン美術館永坂分館」、「旧石 橋邸」、「高峰秀子・松山善三邸」と白い建物が 続く、高級住宅地を味わうことができます。

「行合坂」を下り、蕎麦の更科三家のある麻布 十番で昼食、「布屋太兵衛」で二色蕎麦をいただ く。



「和朗フラット(スペイン村)|

午後は東麻布の谷道にある「狸穴公園」から 「鼠坂」、「植木坂」を上り外苑東通リに出て西 へ進むと伝説のイタリアンレストラン「キャンティ 」。その脇の小道を下り突き当りに「和朗フラット」が建っている。台地の中のちょっとした窪 にスペイン村と呼ばれる不思議な一画がある。も ともとは大名屋敷で、昭和の初めアメリカ帰りの 農業技術者上田文三郎が、西海岸で目にした と下ルスタイルに魅せられ、この土地を取得し、 大工と相談しながら自らが設計し建てたという。 コロニアル風の外観と日本の伝統的な長屋形式の プランのアパートが生まれた。まさに昭和モダン でした。 紀州徳川家屋敷跡に建つ麻布小学校横の「行合坂」を上り六本木一丁目へ。かつての「住友東京別邸」、荷風の「偏奇館」のあった尾根道を東へ歩き、解体中の「ホテルオークラ新館」を残念がりつつ、新しくなったロビーで休み、「汐見坂下」の公開空地でゴールとし解散しました。

(文と写真:浅黄 美彦)

#### 原風景はカケラになれども

1949年、舞台美術家の父(吉田謙吉) が設計し た12坪の家は、片流れの屋根に赤いペンキ塗りの 外壁で、小さな舞台があった。戦前の閉塞感から 開放された演劇人や画家、作家たちが毎日集まっ た。「雁木坂」を登り、郵政省、ソ連大使館を横 目に見ながら麻布小学校に通う私はそんな大人た ちの間で暮らし、結婚し、娘二人を育てた。1988 年、都市開発の波がおし寄せ、我が家は町田へ。 その飯倉を33年ぶりに歩いた。「芝給水場(通称 水道山)」の崖下に建てたわが家はビルの一角に なっていたけれど、水道山はカケラになって残っ ていた。子どもたちが台所の窓から出入りして、 草花をつんだ山。八幡様の盆踊りでは父が太鼓を 打った。「聖アンデレ教会」のバザーには外国人 のピエロがやってきた。妹は「聖オルバン教会」 で挙式。3系統の都電がゴトゴトチンチンと走る 飯倉片町の交差点は、登り坂と下り坂が合流する 不思議な地形で、脱線事故も起きた。我善坊町に 住むお産婆さんを呼びに走り、姉弟たち4人をと りあげてもらった。カケラが次々と語りかけてく る。



謙吉手描きの引っ越し挨拶状 水道山も描かれている。

(文:塩澤珠江)

#### 緑地管理

#### 生い茂る夏草刈りと枯れ木の整備 人気ある切通しの景観も改善

当会管理地は町田市小野路町大犬久保谷戸の奥で、布田道沿いの1)緑地/後背山地と2)竹林です。布田道は江戸期小野路宿から甲州街道調布の布田五宿を結ぶ重要な脇往還であり人馬が行き交いました。そんな長い歴史と緑豊かな自然に恵まれて、管理地は心安らぐ憩いの広場でもあり汗をかく作業場でもあります。

2021年9月19日(日)天気:晴 参加者:9名

[緑地草刈り] 6月作業以来の現地は夏草が緑地全体を厚く覆い、中央部の枯れ高木は強風で倒れ、西側部分では高さ3mを超えるオオブタクサがはびこるという著しく荒廃した有り様。先ずは草刈機で物置小屋への通路と駐車地の草刈りの後、手鎌で小屋近辺の草刈りを継続した。草刈機2台は花粉アレルギーが懸念されるオオブタクサ刈りに集中した。





(写真:神谷 由紀子)

6月町田市に伐木を要請していた枯れた高木が 処理される前に倒壊していたので、チェーンソー を扱える石垣さんが木幹は短く切断して脇に置き、 枝類は一カ所に積み上げて乾燥後には焼却出来る よう整理してくれた。

全員で草刈機もフル稼働させて雑草刈りをしたが、午前中の2時間では必要最低限しか出来ず、なお緑地全体は荒れた印象のままで終わった。

10月31日(日) 天気:曇のち小雨 参加者:9名

[緑地草刈り] 布田道沿いのヒガンバナ葉周りの雑草を手鎌で除き、カナムグラが取り付く灌木類を切り取り、先に草刈機で刈り積んでいた刈草を奥に移した。前回作業では不充分なため適宜折りを見て草刈りを相当継続してあったので、天気予報より早く冷たい小雨が降り始め作業は途中で切り上げたが、緑地全体として整備され美しい印象となった。

鈴木(由)さんと神谷さんが前回積んであった倒木枝を焼却する焚火でリンゴ、ジャガイモ、サツマイモのホイル焼きをしてくれたので、作業の終わりに皆で楽しむことが出来た。特に紅玉リンゴ焼きは酸味を残す甘みが香ばしく嬉しかった。

11月14日(日) 天気:晴 参加者:6名

[竹林草刈り] 竹林エリアの危険な枯木は町田市が要請どおり伐木してくれたが、予算の関係から搬出されず短く切断して並べられていた。集会場付近は雑草と小竹がはびこり足を踏み入れ難い状態につき、先ずは全員で駐車地から草刈りをしてアクセス路確保に専念した。

集会場周辺は一応改善されたが、管理域全体では倒木や倒れそうな竹や木々が散見される荒れた 状態のままであり、次回以降の作業課題とした。

12月12日(日)天気:晴 参加者:6名

[竹林整備] 前半は前回に続き集会場の草刈りと 灌木除伐をして来春筍刈りへの準備を進めた。後 半はハイカーが往来する切通し付近に移動して布 田道との境界部の整備に当たった。枯れた竹を切 り倒したり、道脇に落下した木枝や腐蝕した竹積 みを片付けて、通行人に被害が出ないようにする と共に人気ある切通し景観改善に役立てた。

切通しの小野路宿絵入り当会案内板を埋め戻し、 緑地の案内板文字を書き直し、会員募集チラシ箱 の新設など、広報活動強化策として来春桜が咲く 前に整備しておきたい。

#### 2022年1月16日(日) 天気:晴 参加者: 9名

[看板整備] 経年劣化で傷んだ緑地/竹林周辺エリアの看板類を原状回復させるとの事務局長提案で看板類4本はペンキ文字上塗り/アクリル板取替え/杭先削り直しなど整備加工のうえ、然るべき位置に埋め戻し、設置当初に迫る見易さと美観を取り戻すことが出来た。特に当会里山マップ案内板は通りすがりのハイカーに好評であり、マップ販促と新会員募集に効果的な内容/形式を今後皆でさらに検討し地道な改良を続けて行きたい。

風もなく穏やかながら小寒い緑地では、我々の 作業成果を褒めるかのようにロウバイが甘く優し い香りを漂わせてくれるなか、久しぶりに皆で揃って「小野路宿里山交流館」に向かい、素朴で味 わい深い名物地粉ウドンの昼食を楽しんでから解 散した。



道標の修復作業



修復完成後の集合写真

(文:合田英興 写真:横山禎子)

#### タヌキの足跡と松ボックリの炭

緑地の整備をしていると、時々面白いものに出 合う。

この間、緑地の隣の畑にタヌキの足跡を見つけた。メイさんが「大きいのと小さいのと両方あるわよ」と気が付いて、親子の足跡に違いないとの結論になった。

暗くなってから、親子のタヌキが山から下りて来て、フカフカの土が気持ち良くて歩き回ったのだろうか。足跡は1回しかないので、耕した直後が一番のお気に入りなのだろうか。他の畑でも足跡を見ると、どんな顔をして歩いているのかと想像してしまう。



松ボックリの炭。除臭用にも楽しそう

焚き火をした時、松ボックリの炭を作ったことがある。蓋に小さな穴を開けた缶に松ボックリを並べ、火の中に置いておくとシューシューと水蒸気が出てくる。水蒸気が止まった時に火から缶を外し、蓋に栓をして冷めるまで置くと、見事な松ボックリの炭が出来上がっている。簡単でおもしろい。これから焚き火の時は、いろいろな素材で炭を作るのはどうでしょうか。

求む『蓋付きの缶』『松ボックリ』『炭にした いもの』。

(文:鈴木 由美子 写真:神谷)





### NPO法人「みどりのゆび」2022年4~6月フットパス・スケジュール

**持ち物**: 弁当 水筒 雨具 **参加費**: 1000円(イベントによって変更あり) **申込**: みどりのゆびHPまたは下記メール ★必ず事務局に確かめてからお出かけください。 **☎** 042-734-5678 **閏** 080-5405-3904(神谷)

先の読めないコロナや自然変異、でも3回目接種など準備して、今年はどんどん歩きたいですね。

- ●必ずお申し込みください。天候によって中止の場合もありますし、昼食の予約など保証できなくなります。
- ●申し込んでも事務局から何も連絡がない場合には、再度ご連絡ください。

メール: info-m@midorinoyubi-footpath.jp 電話: 042-734-5678 FAX: 042-734-8954 携帯: 080-5405-3904 (神谷)

#### 4月9日(土)

【集合】JR「王子」駅駅前公園 10:00AM 【昼食】現地レストラン 申込締切

#### 『他のまちのフットパスをみてみよう:渋沢栄一の愛した飛鳥山』 【講師:鈴木由美子・八田三枝子:王子・飛鳥山の今と昔を歩く】

【内容】キツネで有名な王子は、縄文時代は海でした。上野から赤羽まで続く崖線の中途に位置しています。飛鳥山は8代将軍の吉宗が桜を植え、渋沢栄一が居を構えた所でもあります。装束稲荷神社のすぐ前のお店には色んなキツネのお面がたくさんあって楽しいです。

【コース】王子駅前公園→装束稲荷神社→北トピア→日光おなり道→王子稲荷神社→名主の滝公園→北王 子線廃線→王子神社→親水公園→醸造試験場跡地公園→飛鳥山→王子駅前公園

#### 4月2日まで 4月24日(日)

【集合】千代田線「赤坂」駅の地上に出て一ツ木通り側「赤坂路izタワー」前広場10:00AM【昼食】自由昼食申込締切

4月17日まで

#### 『フットパス専門家講座:東京の古街道①宮田太郎の古街道探索シリーズ』 【講師:宮田太郎:赤坂の星ヶ岡と紀尾井町の奥州古街道・歴史ロマン探索】

【内容】京都の平安京から宮城県仙台市の多賀城まで続いた奥州古街道は幾つかのルートがありましたが、 渋谷の道玄坂〜赤坂御所内〜紀尾井坂などを通って皇居の紅葉山一帯を乗り越える道筋がありました。今 の天皇陛下は学習院初等科の頃に赤坂御所の中で、この街道の名を記した案内板を見つけてから古道に興 味を持たれています。このルートを追って赤坂から江戸城半蔵門付近までを今回は探ります。赤坂では魯 山人の料亭「星岡茶寮」の名の由来にもつながる北斗七星信仰のロマンも探索しましょう。

【コース】集合地〜勝海舟邸跡〜南部坂と氷川神社〜昼食(赤坂一ツ木通り周辺で自由)〜日枝神社と 星ヶ岡〜赤坂御門〜紀尾井坂(奥州古街道)〜服部半蔵が住んだ清水谷(大久保利通哀悼碑ほか)〜平川 天満宮と増上寺元地(奥州古道推定地)〜半蔵門〜地下鉄半蔵門駅。約5キロM。解散は15時頃を予定。

※赤坂ビズタワーの待ち合わせスポット: 赤坂ビズタワーの1階アトリウムは、プレ イスポット赤坂の待ち合わせ場所としても よく使われます。



#### 5月8日(日)

【集合】大江戸線 「牛込柳町」駅東 口(地上出口) 10:00AM 【昼食】自由昼食 申込締切

#### 『他のまちのフットパスをみてみよう:新旧が心地よく共存する牛込神楽坂』 【講師:田邊博仁:「江戸東京フットパス」の牛込神楽坂編】

【内容】牛込神楽坂は、江戸城への上州道(早稲田通り)の守りとして武家屋敷・寺社が配置された町始まりである。明治になり武家の町から庶民の住宅・商店の町へ。関東大震災の被害が少なく、一時期、「山の手銀座」と呼ばれるほど賑わい、漱石など多くの文豪が愛した町でもあった。焼野原となった東京大空襲後も急速に復興した。江戸の地勢を変えずに近代化したことから、江戸の道筋が残り、地名や道の名にその歴史が残っている。また、神楽坂は坂のある小径と石畳の細い路地裏が小京都、モンマルトルのような街並みとも紹介されている。新旧が心地良く共存する牛込神楽坂をご一緒に歩いてみましょう。【コース】:大江戸線牛込柳町駅(10:00)→漱石山房記念館→東西線神楽坂駅界隈→赤城神社→毘沙門天善國寺界隈→神楽坂界隈→JR飯田橋駅(15:30頃)

#### |5月22日(日)

5月1日まで

【集合】東京駅 丸の内中央改札 口出た所 10:00AM 【昼食】 弁当要 申込締切 5月15日まで

#### 『フットパス専門家講座:スミレ博士と行く春の皇居・東御苑』 【講師:山田隆彦:花の咲き誇る東御苑を訪ねましょう】

【内容】皇居で一般公開されている東御苑で春の花々を訪ねます。御苑内の雑木林や日本本庭園の植物を 観察します。雨天中止

【コース】大手門→二の丸(雑木林、庭園)→本丸周回

#### 6月4(土)

【集合】小田急線 「世田谷代田」駅 改札口 10:00AM 【昼食】 現地レス トラン予定 申込締切 5月28日まで

#### 『フットパス専門家講座:下北線路街とその周辺を歩く』

#### 【講師:浅黄美彦:変貌する下北沢とひっそりとあるカトリック世田谷教会】

【内容】2022年3月小田急線の地下化し線路上の人工地盤の空間が完成します。

世田谷代田〜東北沢までの約1.7キロが遊歩道となるだけでなく、シモキタ線路街としてさまざまなまちづくりの試みがなされています。店舗併用住宅を集めたボーナストラック、温泉と茶寮のある宿泊施設など、新しい街が造られています。

線路街とその周辺を歩き、かつて通勤で見ていた都市風景を回想しながら、新たな街の息吹を感じてみましょう。併せて、下北沢駅前市場跡、ザ・スズナリ、カトリック世田谷教会、代々木八幡神社を訪ね、新旧織り交ぜた下北沢周辺の街を味わいます。

【コース】:世田谷代田駅→シモキタ線路街→下北沢駅前市場跡→小劇場ザ・スズナリ →カトリック世田谷教会 → 昼食(下北沢駅周辺各自)→ 代々木八幡駅改札口(再集合)→代々木 八幡宮(作家平岩弓枝の実家)→元代々木から代々木上原の高級住宅地巡り→代々木上原駅解散(15:30予定)※途中抜け可(午前中は平坦で見どころが多いです。午後は坂道を歩きます。)



カトリック世田谷教会 ルルド



ボーナストラック

#### 6月19日(日)

【集合】赤坂見附 交番(銀座線・丸 の内線 赤坂見附 駅 A出口上) 10:00AM 【昼食】自由昼食 (左門町か荒木町) 申込締切 6月12日まで

#### 『他のまちのフットパスをみてみよう:谷と緑と古い町並みの四谷から新宿』 【講師:みどりのゆび:江戸城外堀以西の総称であった四谷は豊かな自然地形の宿場】

【内容】東京の中でも大きな緑の集まる四谷周辺は起伏の豊かな地形で、元は薄野原だったようですが、水が豊かで街道もでき人も集まり宿場ができました。赤坂から外堀に沿って四谷まで上り、新宿までの起伏ある地形を感じながら歩きます。上智大学のクルトゥラハイム、聖イグナチオ教会、赤坂御所やホテルニューオータニの庭園、左門町の御岩稲荷、荒木町の花街、新宿歴史博物館、内藤新宿のあった新宿御苑など見所は満載です。

【コース】赤坂見附駅交番→紀尾井坂→庭園(ホテルまたは赤坂御苑)→上智大学教会→四谷見附跡 →四谷左門町(昼食)→四谷荒木町(花街など)→新宿御苑→新宿駅

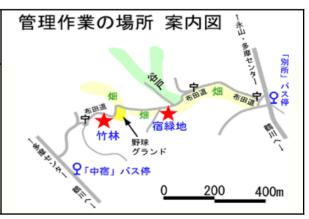
●お試し参加のお勧め/初回は参加費無料。お申し込みを。

### 「みどりのゆび」2022年4月 ~ CSAスケジュール

★雨天では、必ず事務局に確かめてからお出かけください。

集合:現地10時 持ち物:弁当、水筒、軍手、長靴(必要なら)

#### **17 7 179** -「緑と農の管理」 2022年度 4/10 (日) 竹林 筍伐採 4/17 (土) 筍伐採 竹林 $4/23 (\pm)$ 竹林 筍伐採 5/15 (日) 緑地草刈 6/5 (日) 緑地草刈 6/12 (日) 恵泉 田植え(田んぼ集合)



#### NPO法人みどりのゆび ホームページのご紹介

2021年から、ホームページを リニューアルいたしました。 ウェブ検索にて「NPO法人みどり のゆび」と挿入すると、右記のホ ームページが開きます。

上部の各項目の▼をクリックしますと、さらに、各種のご案内が開きます。

- ●「イベント」では各種イベント の、スケジュール、カレンダー、 申し込みが開きます。
- ●「活動の記録」では会報、活動 レポートが開きます。
- ●「みどりのゆび概要」では、会 のご紹介、沿革、入会申し込みな どが開きます。
- ●「お知らせ」では、新着情報、 掲示板が開きます。掲示板では、 みなさまの投稿が可能になりまし たので、ご活用ください。

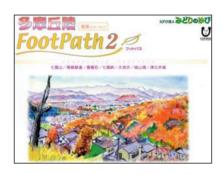


## フットパスガイドマップ 既刊4冊

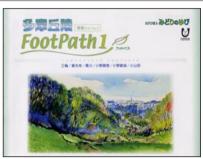
町田市地域には、フットパスにふさわしい昔ながらの里山風景、雑木林、 田畑、古街道、歴史の面影などが随所に残されています。

魅力あるフットパスコースを町田市と協働で開発してフットパスガイドマップとし、「多摩丘陵FootPath1」\$4500+税、「多摩丘陵FootPath2」\$4500+税、「まちだフットパスガイドマップ」\$4800+税、「まちだフットパスガイドマップ2」\$4700+税 の4冊を刊行しています。

市内の書店でのご購入、または、事務局へお申し込みください。









#### NPO法人「みどりのゆび」

・事務局 : Tel 042-734-5678 Fax 042-734-8954 Email info-m@midorinoyubi-footpath.jp

・ホームページ : http://www.midorinoyubi-footpath.jp/

Facebook : <a href="https://www.facebook.com/midorinoyubi.footpath">https://www.facebook.com/midorinoyubi.footpath</a>